

企業会計 (内部統制) 11回目

オムロンエキスパートリンク
圓井

2020-12-23

会社をナビゲートする

1. 予算管理
2. 管理会計（部門、科目、Project、商品など）
事業の状況を的確に把握し、経営者／事業責任者の意思決定に有用な情報を提供する。
3. 資産の保全
信用管理
4. 財務体質の強化
自己（株主）資本比率を高める。
有利子負債を圧縮する。
資産を圧縮する。

お名前（ ）

1. 管理会計の目的は何ですか？

事業の状況を的確に把握し、経営者・事業責任者の意思決定に有用な情報を提供すること。

2. あなたが社長なら管理会計を使ってどのような情報を知りたいですか？ それは何のためですか

商品ごとの売上高（エリア別、客先別）の推移、商品ごとの変動費・固定費（理由）売上高を伸ばす要因を分析し、売上成長を目指すため。
商品毎の損益分析を行い、収益性を高める方策を検討するため。

3. 与信とはどういうことですか？

「与信」とは、お客様に信用を供与すること。
取引相手に対してどれだけの金銭的な信用を供与するのかということ。

4. 与信がなぜ重要ですか？

お客様の信用状況に応じた与信限度額を設定し、売上債権等の回収ができなくなるリスクコントロールを行う必要があるから。

Q1 経営者、責任者に管理会計の有用な情報を提供する、とありますが、実際どれくらいの確率で、経営側はそれを参考にし、お金を出してくれるのでしょうか。ひそかに経営側と経理側の信頼関係が表れたりするものなのでしょうか。

Q2 与信とは、お客様を信用するという意味でよろしいでしょうか。

Q3 財務体質の強化の資料として具体的にB / LとP / Lの表から見る方法が記載されていて勉強になりました。質問があります。売掛金や受取手形や在庫などの資産が増えたのはいいことだと思うのですが、不渡りや貸倒れ、売れずに過剰在庫となった場合は資産が多いことが必ずしも良いことのように思えないのですがどう考えたらいいのでしょうか？

Q4 オムロンさんでは、与信に特化した部署がありますか。

Q5 「気になる企業や話題の企業」はどのような視点で探せばいいのでしょうか？

C1 本日の授業で残った「財務体質の強化」を是非お聞きしたいです。お願いします。
最終回の企業分析は、先生が「今後、最も成長すると思う企業」を選んで教えて頂きたいです。今後の就職活動の企業選びや人生設計に大変役立ちます。なぜ成長すると思うか、どこを見ると良いかも具体的に教えてください。よろしくお願いします。

C2 年度末にしていた棚卸の意味が理解できた。社内の古い家具なども大掃除の際に捨てようとしたところ管理番号のようなものは張られている場合は勝手に処分をしてはいけないと教わったのですがこれは固定資産と言うことでしょうか？長期間使用しておらず、使用の予定もないため破棄の要否を検討してもらいたいと思います。企業会計の授業を受けていると社内の業務で意味がないと思っていたことも重要な意味があるのだと勉強になります。ほかの企業のポートフォリオマネジメントも見たいと思いました。

C3 コロナ禍で、コロナ患者さんを受け入れている病院は、来年度の予算管理も、また決算書も大変なことになっているだろうな、と思います。病院経営は特殊だと思うのですが、最終回の授業で聞いてみたいです。また、スポーツチームを持っている企業（ラグビー、陸上など）は、どのような会計になっているのかも興味があります。

C4 在庫の評価は市場が変化することで下がる可能性があること、現時点では赤字だがそれが過小評価なのか減損の必要があるのか、企業を正しく評価する判断は重要だが見極めがとても難しい。

C5 前回の約束手形に、ゴリラやきつつき、ペンギンが登場したので、ほっこりしました。きつつきさんがゴリラさんから巣を作るための木材を購入されたみたいですね。小鳥市なので、きつつきさんやペンギンさんが住んでいるのでしょうか。ゴリラさんなら、木を倒して木材にするのは朝飯前かもしれません。
ちなみに、ゴリラ木材の社長さんは、もしかして圓井先生のことでしょうか（失礼しました）。

内部統制について理解する

そのために

1. 内部統制とは
 2. エンロン・ワールドコム事件とSOX法
 3. 内部統制の全体像
 4. コーポレートガバナンスと内部統制
 5. 不正のトライアングル
 6. 内部統制の基本的な考え方
 7. 内部統制の品質を担保するために
 8. プロセス脆弱性の事例
- を、理解しましょう。

内部統制（ないぶとうせい、英：internal control）とは組織の業務の適正を確保するための体制を構築していくシステム（制度）を指す。

すなわち、組織がその目的を有効・効率的かつ適正に達成するために、**その組織の内部において適用されるルールや業務プロセスを整備し運用すること、ないしその結果確立されたシステムをいう。コーポレート・ガバナンスの要**とも言え、近年その構築と運用が重要視されている。

エンロン：インターネットを使ったエネルギー取引により急成長。

2001年12月に破綻。不正経理／不正取引があったことも判明し
関与したアーサーアンダーセンも解散。

ワールドコム：大手通信会社。2002年6月に破綻。

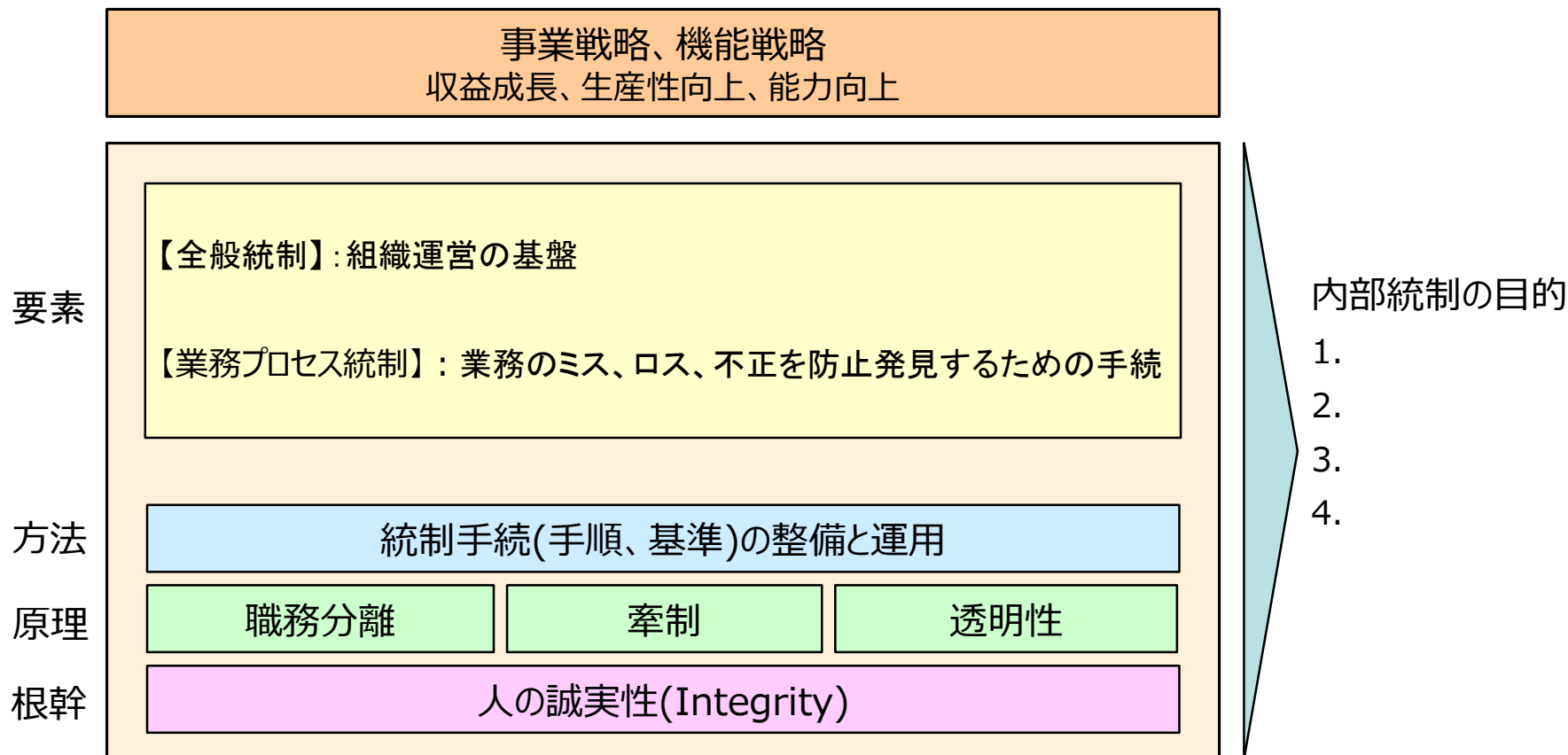
外部監査法人、格付け機関、証券アナリストなど、会計操作を見抜けず、
市場の信頼が失墜。

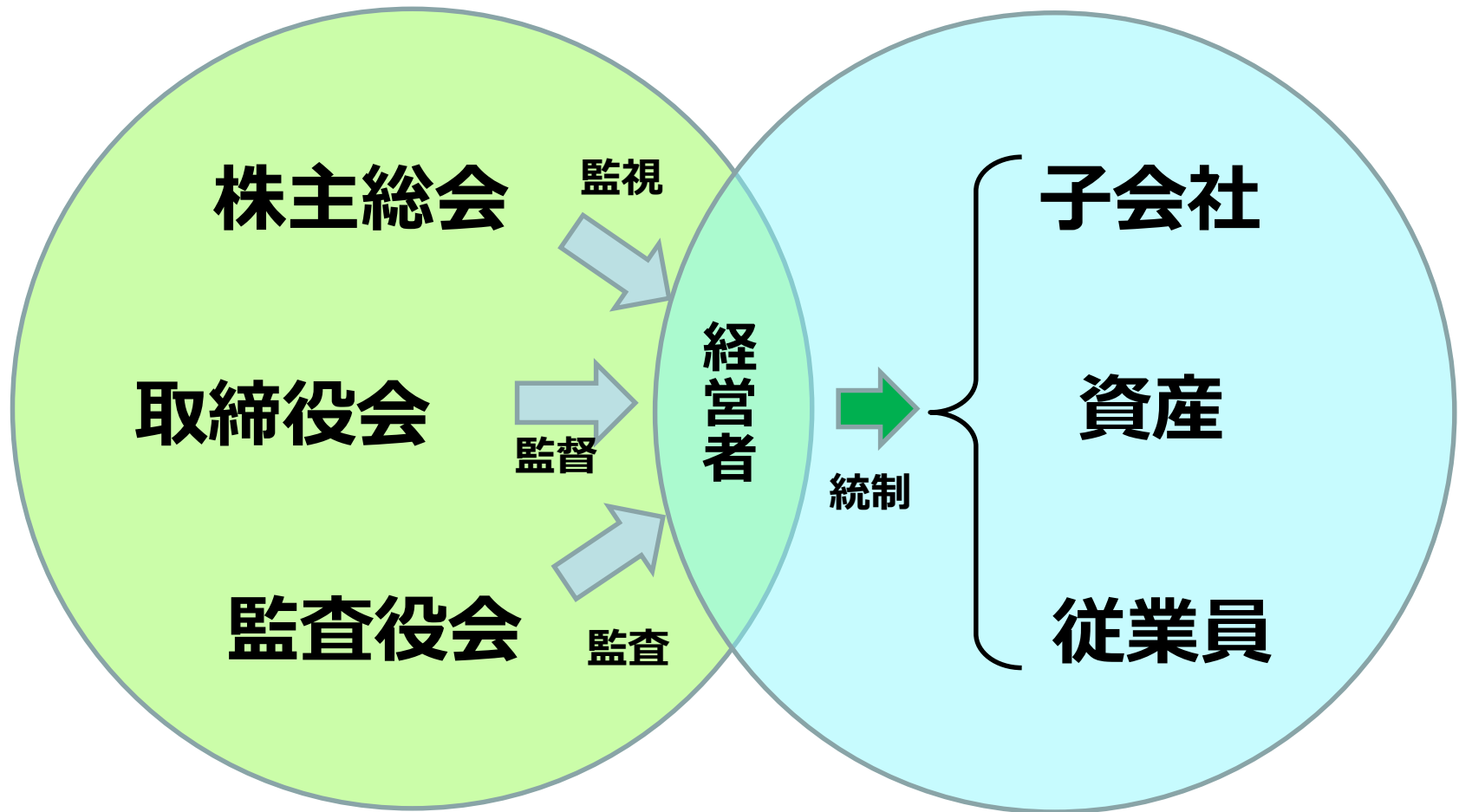
信頼回復のために、2002年7月 米国で企業改革法（SOX法）を制定。
（議案提案者のポール・サーベンス、マイケル・オクスリーの頭文字から）

1. 「監査の品質管理と独立性の強化」
2. 「コーポレート・ガバナンスの改革」
3. 「情報開示の強化」

内部統制の全体像

- ◆ 内部統制は、その目的の達成を通して、事業戦略や機能戦略の成功を支える。
- ◆ 内部統制の根幹として、人の誠実性(Integrity)が最も重要である。
- ◆ 職務分離、牽制、透明性に基づき、統制手続を整備し運用して、内部統制を実現する。
- ◆ 内部統制は、全般統制と、業務プロセス統制から構成される。





不正のトライアングル

業績を良く見せたい
無理な要求だが断り切れない、
罰がある
お金が欲しい、必要だ

**を持つ従業員がいないか注意を払う。
不合理な業績を要求しない。**

不正ができる手口がある
不正を見つける手段がない

不正の「 」をつぶす。

・内部統制の整備と運用

やってもいいんだ
会社のためだ
当然の権利だ

の余地をなくす。

・十分な倫理教育
・明確な人事評価ルール等

1. の有無

統制の目的が明確で、統制を行う方法がルールとして明文化されているか

例えば、

インターネットバンキングのIDは、作成と承認それぞれ権限を別の人が保有し、別々に運用する。

2.

内部統制の品質を担保するために



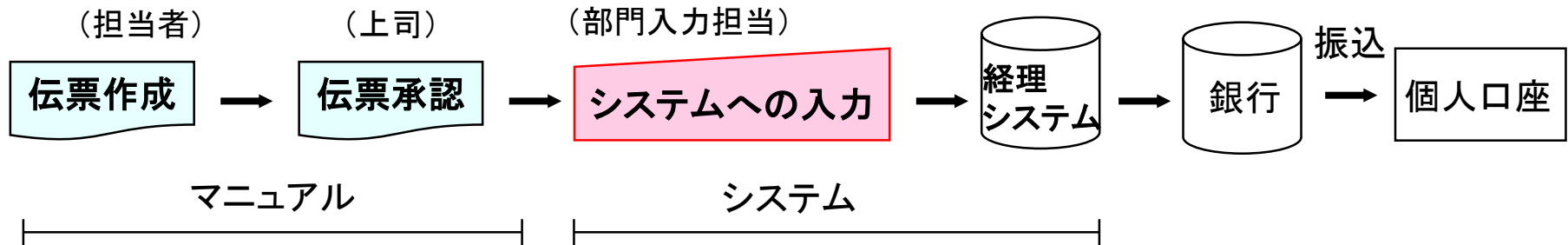
オムロンエクスパートリンク株式会社

1. 各部門で を行う
各業務毎に統制すべき内容が決められており、
各部門でルールの有無、運用の適切性を自己評価する。
ルールがない場合、あるいは運用が適切でない場合は、
改善計画を作成し、年度末までに改善を実行する。

**2. 監査部門が、各部門の内部統制状況を定期的に
監査し、自己評価の妥当性、ルールの有無、適切性、
運用の適切性を評価。
必要により改善を求める報告書を提出。**

プロセスの脆弱性（事例）

以下のプロセスで、どこが脆弱でしょうか？



■ルールのコンセプト

1. 一人でお金を動かさない。
2. お金を動かした証跡が残る。
3. リスクポイント（管理すべきポイント）のミニマイズ。
4. OMCXによる管理強化。

■ルール内容

1. 取引銀行
 - ・プライマリー銀行：1国1行。
 - ・サブ銀行：プライマリー銀行ができない業務に限定して取引。残高は基本ゼロ。
2. 銀行口座
 - ・すべての口座の開設、閉鎖等はGFA長決裁。
 - ・外貨口座は、外貨での収入・支出双方がある場合のみに認める。
3. FB/支払集中システムのID管理
 - ・物理的に（系統的に）1人で申請・承認が完結する権限は禁止。
 - ・OMCXが一元的に管理する。（IDの取得、変更等はOMCXが承認）
4. 支払先情報の事前登録
 - ・支払集中システムに事前登録されている支払先にのみ支払が可能。
 - ・OMCXがエビデンスに基づき最終承認を行い登録する。
5. 支払の承認
 - ・WPで従来同様の支払の妥当性・正確性を担保した上で、OMCXが最終承認。
 - ・支払先毎に上限金額／回、上限回数／月を設定し、上回る場合は確認。
6. 現金
 - ・取り扱わない。どうしても必要な場合は、立替または仮払で対応する。
7. 小切手/手形
 - ・取り扱わない。振込と同様に電子証跡が残る小切手/手形は認める。
8. 金庫・印鑑・サイナーの取り扱い
 - ・2人以上で操作、押印する。
 - ・押印権限者のOMCXによる承認と管理。

1) 株主資本の部

2009/3期 2,984億円 2019/3期 5,042億円
その他の剰余金(利益の蓄積)。

株主資本比率＝株主資本÷総資産

2009年3月 $55\% = 2,984 \div 5,383$

2018年3月 $67\% = 5,042 \div 7,499$

2) 負債の部

短期債務 330億円、長期債務 214億円 ⇒ ゼロ

仕入債務月数＝仕入債務÷売上原価×12

2009年 $582\text{億円} \div 4,087\text{億円} \times 12 = 1.71$

2019年 $892\text{億円} \div 5,054\text{億円} \times 12 = 2.11$

3) 資産の部

- ・現金及び現金同等物が、大幅増加。 466億円⇒1,102億円

- ・受取手形及び売掛金 1,136億円⇒1,712億円

受取手形及び売掛金月数＝受取手形及び売掛金÷売上高×12

2009年＝1,136億円÷6,272×12＝2.17

2019年＝1,712億円÷8,595億円×12＝2.39

- ・たな卸資産 847億円⇒1,301億円

たな卸資産月数＝たな卸資産÷売上原価×12

2009年＝847億円÷4,087億円×12＝2.49

2019年＝1,301億円÷5,054億円×12＝3.09